

第7回 親しみやすい笑顔と美声で 人気だった「チョコちゃん」

昭和39年、東京オリピックが開催された頃、レコード会社の日本コロムビアでは2人の「千代子さん」が活躍していました。「お千代さん」こと島倉千代子と、もう一人、「チョコちゃん」こと本間千代子です。

東映の児童劇団出身で、すでにテレビ活劇『ナショナルキッド』などで子役として活躍していたチョコちゃんですが、昭和38年頃から東映の青春映画に出演し、歌う青春スター女優として、日活の吉永小百合とそ的人气を分け合うことになりました。

日本ビクターの橋&吉永の黄金コンビに対して、コロムビアは島倉&守屋浩を対抗馬としましたが、舟木一夫と本間千代子のデュエットソングを待ち望んでいたファンも多かったことと思います。

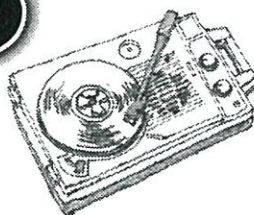
魅了されたファンも多かったことでしょう。

結局、舟木&本間によるデュエット

名曲カルテ

昭和歌謡と いままで

堀井六郎
絵・松本 浦

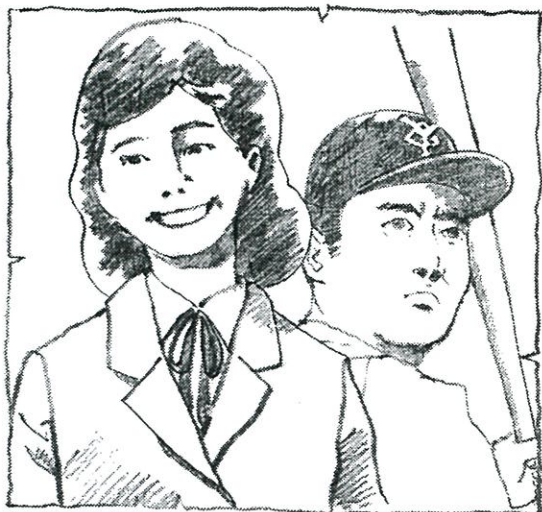


トソングのレコード化は実現しませんでしたでしたが、映画の中でいっしょに歌っているシーンがいくつかあります。

舟木のヒット曲『君たちがいて僕がいた』が映画化されたときの予告編には「待望のフレッシュコンビ若人の夢のアイドル」という惹句が躍っています。劇中、レコードにはない「ひろし君が好き!」という台詞をチョコちゃんに言わせています。

まあ、青春歌謡映画の定番シーンともいえるもので、学生服の舟木を囲んで、制服姿のチョコちゃんが仲間とともに歌っています。

昭和39年8月公開の東映映画『夢のハワイで盆踊り』では、舟木、コ



ロムビア・ローズ(二代目)、スリー・ファンキーズから独立していた高橋元太郎とともに主題歌を歌っていますが、その高橋元太郎とは、『夢のハワイ』のB面『わかもの行進曲』と『遊園地のうた』という「みんなのうた」に出てくるような明るい童謡風の歌でデュエットしています。

児童合唱団出身で童謡歌手としても活躍したチョコちゃんの歌声は、音程もしっかりしていて安心して聴けます。再発されているCDを聴いてみれば、ケレンのない素直な歌唱が、古くは松島トモ子、小鳩くるみ、近年では(といっても30年以上前ですが)、薬師丸ひろ子の歌声を思い出させてくれるでしょう。

そんなチョコちゃんにデュエットソングの隠し球がありました。昭和40年に発売された『白いボール』という応援歌風の曲で、あの世界のホームラン王、王選手とデュエットしているのです。

「ナボナ」のCMに登場する前ですが、「僕の歌もよろしく」といったところでしょうか。なお、作曲したのは、チョコちゃんのお姉さんのご主人、富田勲です。